

大地から学ぶ越路の

おいたち



H27.5.31 春の野外観察会

左・右下：布岩山にて（屋敷）

右上：苗場溶岩の柱状節理（見玉）

右中：上ノ原溶結凝灰岩の採取

撮影：佐野迪則氏

【主な内容】

■平成27年度春の野外観察会報告

苗場山麓ジオパーク「秋山郷」ツアー ……案内：苗場山麓ジオパーク振興協議会他

■平成27年度総会記念講演会案内

■連載第12回：金井さんのボーリング資料から ……大地の会顧問 渡辺文雄

■総会資料

- ・平成26年度活動報告・平成27年度活動計画案
- ・平成26年度会計決算報告・平成27年度予算案

苗場山麓ジオパーク「秋山郷ツアー」－鈴木牧之が歩んだ秋山記行をたどって－

案内：佐藤雅一、仲野浩平（苗場山麓ジオパーク振興協議会）
渡辺秀男、山崎興輔（大地の会顧問）

中津川上流「秋山郷」は新潟県津南町と長野県栄村にまたがる地域で、苗場山、鳥甲山に挟まれた山間地域でまさに秘境の地の感があります。苗場、鳥甲の火山活動による溶岩の流れと中津川が刻む深い谷、柱状節理の岩壁が見るものを圧倒します。

秋山郷は文政11(1828)年、鈴木牧之が歩きその様子を「秋山記行」に克明な絵を残しています。今回はこの秋山郷を地形・地質と歴史・風俗の両面から学習しました。参加者は54名。マイクロバス2台と伴走車1台で、朝方降っていた雨も上がりとても気持ちのいい観察会でした。案内していただいた先生方に感謝すると共に観察会資料を抜粋して報告とします。

■観察場所

- 1 津南町農と縄文の体験実習館「なじよもん」
- 2 見玉 (①1.5 万年前の崩壊地形 ②苗場溶岩の柱状節理(石落とし) ③見玉不動尊)
- 3 逆巻 (①牧之も渡った猿飛橋 ②1500 万年前の結東層中の玄武岩の柱状節理(千体仏))
- 4 清水川原(秋山郷の入り口)
- 5 のよさの里(鳥甲火山地形)：昼食
- 6 大規模噴火による溶結凝灰岩(虎斑石) 観察
- 7 切明(川原から自噴する温泉)
- 8 屋敷・布岩山(鳥甲火山の柱状節理)
- 9 前倉(苗場山の眺望)

■津南 中津川沿いの地質層序

		百万年	津南周辺	新潟平野	
第 四 紀	更新世	完新世	沖積層		
		後期	段丘堆積物		段丘の形成
	中世	中期	苗場火山噴出物		陸上火山活動
		前期	鳥甲火山噴出物 毛無火山噴出物	魚沼層群	魚沼層群
新 鮮 世	1.6	前倉溶岩	灰爪層		海が浅くなる
			西山層		
	5.3	西田尻層 エラクボ平火山岩 高井火山岩類	椎谷層		海底火山活動
第 三 紀	中新世	後期	和山凝灰岩層 屋敷礫岩層	葦沢層 大沢層	湖での堆積 石油の生成
		中期	秋山礫岩層	寺泊層 上野層	七谷層
	15	結東層	津川層		海底火山活動

(単位：百万年) 島津・関沢「秋山郷の地学案内」から引用

図1 津南周辺の地質層序



図2 「なじよもん」津南町の立体模型で秋山郷全体の説明



図3 各段丘の年代と津南断層

■観察地点と内容

1 「なじよもん」の変動地形

なじよもんが位置する6万年前の段丘面が南側の9～7万年前の国道117号が通る卯ノ木面よりはるかに高い。古く形成された段丘面ほど高く、新しい段丘面ほど低いという規則性が見られない特異な地形です。これは両段丘の境界に通る津南断層が、後からできたなじよもんの段丘面を押し上げたことによるものです(図3)。

2-① 見玉の大崩壊

崩壊地形はU字形で長径が2.5km、短径が1.5kmの大きさです(図4)。すべり面の最大高低差は300mに達します。崩壊物は苗場溶岩の超巨礫や円礫と泥混じりからなり、中津川の対岸に達しています。地すべりの発生年代は1万年前頃と推定され、すべり面は苗場溶岩下の魚沼層のれき層です。

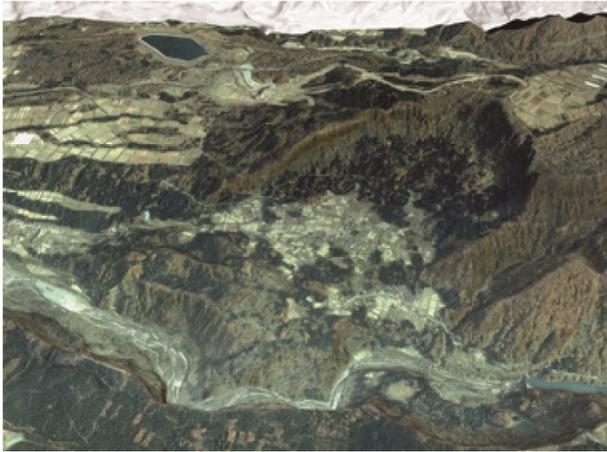


図4 見玉の大規模な崩壊地形



図5 見玉 中津川対岸の崖

2-② 苗場溶岩の柱状節理（石落とし）

見玉の中津川対岸には、魚沼層の上部に苗場Ⅱ溶岩の柱状節理の崖が観察できます(図5)。苗場第2期溶岩の流出年代は30万年前頃と推定されます。溶岩は右岸から左岸に向かって流れ、先端はもっと北側の竜ヶ窪まで流れています。

魚沼層には110万年前の古型マンモスゾウの臼歯が産出しました。越路の塚野山のゾウの足跡化石とほぼ同時代のものです。

図の右側には見玉の崩壊時に河床に堆積した崩壊堆積物が見られます。

2-③ 見玉不動尊

鈴木牧之は今から245年前の明和7(1770)年塩沢町に生まれ、59歳の時(1828年)7日間かけて秋山郷を歩いています。秋山記行は江戸時代の秋山の地の生活、風俗や習慣などを絵と文章で克明に描いた紀行文で、牧之の没後刊行されています。

見玉では正法院に宿泊、当時の様子を描いており(図6)、仁王門と不動尊の配置は当時のままです。

見玉不動尊は昔から眼病にご利益があるとされています。



図6 秋山記行の見玉 不動尊 ↑ と現在の仁王門→

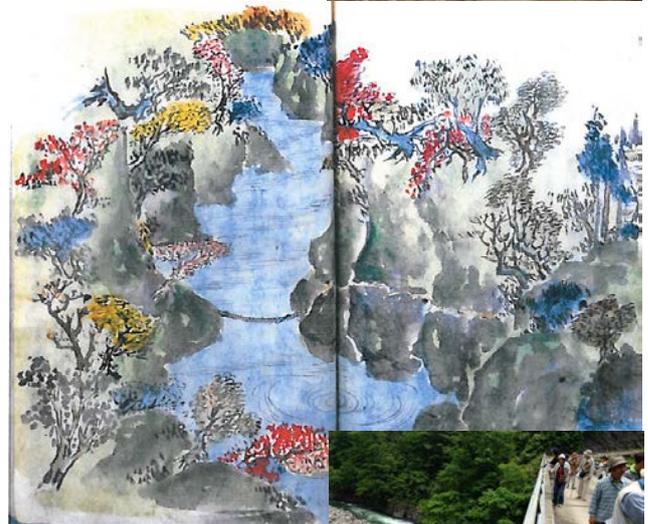


図7 猿飛橋 現在の橋から川を望む



3 猿飛橋・千体仏

逆巻には、秋山記行に描かれ牧之も渡ったという猿飛橋があります。現在の猿飛橋の下に当時の岩を望むことができます(図7)。

この付近の地層は1,000万年前頃の海底に堆積した火山噴出物が主体の結東層からなり、岩石の色が緑色化しているのが特徴です。結東層中の玄武岩は小規模の六角柱状の節理があり、その柱状節理の様子から千体仏像と呼ばれています(図8)。

猿飛橋下流の右岸に確認できます。



図8 逆巻 玄武岩の柱状節理(千体仏像)

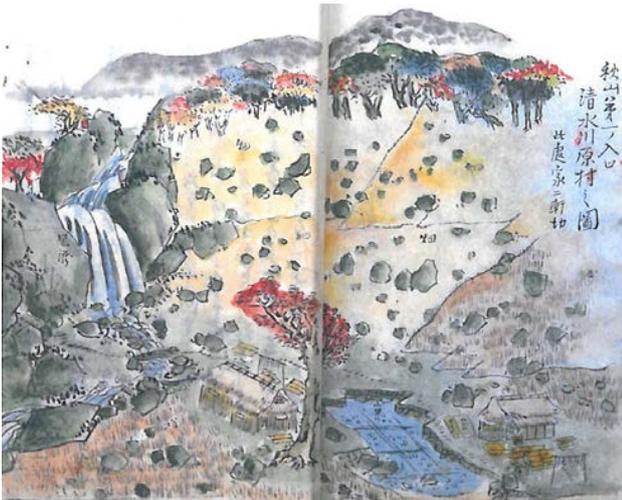


図9 秋山郷の入口 清水川原

4 清水川原

牧之は、秋山の入口として記しており、清水川原の図を描いており(図9上)、村の手前には「ほうそうのある村のものこの先立ち入り禁止・・・」の高札が有ったと書かれているとのことでした。

5 のよさの里からの鳥甲山連峰の眺望

中津川対岸から見る鳥甲山はすそ野が広がっており、南の白倉山と北の赤倉山をはさんで、鳥甲山(2037m)が位置しています(図10)。

赤倉山が赤いのは硫化鉄の酸化によるもので、一方、白倉山が白いのは溶岩の色です。前面の絶壁は、中津川に沿って断層が通り、そのため山体が崩壊してできたものと考えられています。

鳥甲火山の土台は結東層、屋敷層であることから鳥甲火山が陸上で噴火したことがわかります。



図10 鳥甲山連峰(のよさの里から)

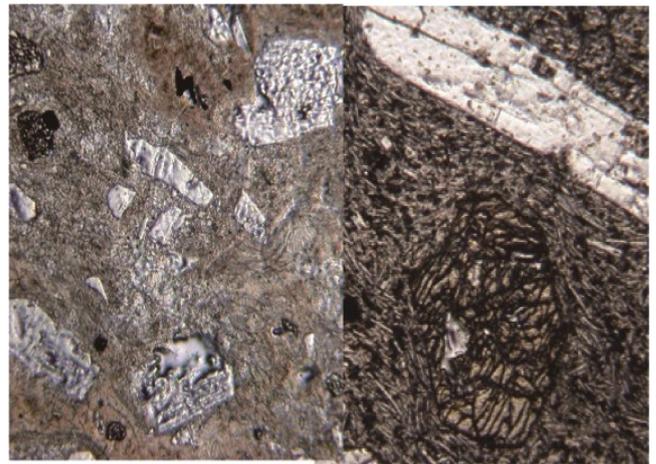


図11 左が溶結凝灰岩、右が溶岩の顕微鏡写真

6 カルデラをつくった上ノ原溶結凝灰岩

上ノ原溶結凝灰岩は80万年前頃の鳥甲火山第2期の火山噴出物で、マグマが発泡し、軽石となって大量に噴き出したため地盤が陥没しカルデラになりました。凝灰岩自身の熱と重さで水飴のようになって流れ、軽石が引き伸ばされて独特な模様の溶結凝灰岩となりました(図11)。

この模様は虎斑石(とらふいし)と呼ばれ、加工しやすいことから、かつては墓石や石像の材料となっていました。このようなカルデラは切明西側の雑魚川沿いにも多数見られます。

7 切明

屋敷温泉は苗場火山が関係した温泉ですが、切明の温泉は雑魚川沿いに分布する閃緑岩が熱源と言われています。

中津川沿いに多くの地点で温泉が湧出しますが、断層に沿って湧出していると思われます。切明は川原に温泉が湧き出していることで多くの観光客に楽しまれています(図12)。

8 布岩山

布岩溶岩は鳥甲火山第2期後期の活動で、上ノ原溶結凝灰岩のカルデラの壁を押し上げてできた安山



図12 切明 川原から湧き出る温泉



図13 布岩山

岩質マグマ起源の溶岩ドームです(図13)。

溶岩ドームは見事な柱状節理をつくり、柱状の高さは50m、柱の太さは1mを超えます。布岩山の上位には鳥甲火山第3期の安山岩やデイサイトの噴出物がおおい、鳥甲火山の山頂部をつくっています。

9 苗場山(百名山)

苗場火山の頂部付近を眺望すると台形に見えます(図14)。山頂部(2145m)の広い平坦面は第4期苗場溶岩がおおいます。

平坦なのは溶岩が流れやすかったことによります。急崖は第3期苗場溶岩です。

苗場火山全体の活動時期は50万?~30万年前の活動で、溶岩のほかに火砕流が積み重なっています。

硫黄川の上流部にはすり鉢状の浸食カルデラが見られ、ここでは硫黄が採取され川の水質は強い酸性(硫酸水)を示します。



図14 苗場山

■鈴木牧之が歩んだ秋山記行

1 鈴木牧之ってどんな人?

明和7(1770)年、塩沢町に生まれる。本名:弥太郎、16歳で元服して儀三治と改名、俳号を「牧之」。

文化4(1807)年、38歳の時『北越雪譜』脱稿。

文政11(1828)年、59歳の時、十辺舎一九から秋山の出版を進められていたことから桶屋の団造の案内で秋山郷を歩く。

天保8・12(1837・1841)年、『北越雪譜』刊行。

天保13(1842)年、73歳の生涯を終える。

『秋山記行』は没後に刊行される。

2 牧之を案内した桶屋の団造とは、何者?

きっと、桶屋、桶をつくるために秋山郷へたびたび往来していた男性。牧之の家の近所、早道場の南雲菊太郎家と推測され屋号「菊桶屋」。これ以外は不明。

3 牧之の行程

文政11年9月8日(新暦の10月6日)早朝から旅がはじまる。

塩沢→十二峠→倉下→葎沢→小出→田代→所平
夕方:野士(のじ)

↓

見玉:正法院に宿泊。法院は不在。大きな囲炉裏に驚く。

清水川原:手前に高札有り「ほうそうある村のもの

↓ この先立ち入り禁止・・・」

三倉(見倉):鶏と犬の声。お茶を頂く。味噌を作るのに麴を入れない。

↓

中の平:立ち寄った家の女性の鼻が低いと一句。

↓

大赤沢:国境の村。獣よけに家々で犬を飼う。

八幡様。尊像が左甚五郎作と聞く。平家の

↓

落人村ではない。また、秋山は「酒・女・博打を知らない」と話した。

甘酒:一人暮らしの老婆宅に伺う。「天明3年の

↓

大飢饉で大秋山が廃村になった」と聞く。

小赤沢:栃の実の食べ方、住居、支配者、物々交換

↓

の品などを聞く。

上ノ原:御礼にこれまでと同様に一句読み短冊を渡

↓

すが「読んで下さい」と頼まれ牧之は「平

家の落人であれば字くらい読めてもよい

のでは?」と疑問を持つ

和山:きれいな女性の容姿に関心を持つ。村中皆、

↓

山田姓だという。村の端に温泉がある。

湯本:和山→湯本は秋山一の難所⇒蝦蟇(がま)

↓

仙人の住処。霊泉の起源を聞くと「箕作村

の庄屋嶋田三左衛門が20年前から開いた」

と聞く。子供から雑魚川を案内してもら

う。【夜】マタギと対面、「上州草津の往

来」「山での猟」「入山のルール」などを興味深く聞き入る。「サルの皮」を購入。

★19年後の弘化4(1847)年に善光寺地震で崩

落、水没。佐久間象山が嘉永元(1848)年、に

来訪、土砂の切り開け工事を指示。

屋敷：湯本から屋敷を經由して下結束までの左岸ルート
の道は良い。赤倉山（鳥甲山）は屋敷の持山で、その後の西方に十三万仏山と呼ぶと習う。

↓
大秋山村：既に46年前（天明3（1783）年に飢饉で
↓
廢村。

前倉橋：足場の悪い前倉橋を見学。

↓

前倉：小高い丘の上に社があり、大きな板材があり、
↓
山師の技に感心する。

結束（上結束）：この地の中津川上流で鱒漁をやっているが、この日は見る
↓
ことができなかった。道端に一斗樽があり、それを水樽として利用していた。

干した「熊の陰茎」を買う。主人は「ここは秋山ではない」と話す。

逆巻：ここで初めて土蔵を見る。猿飛端を渡る。

↓

見玉：方丈様はまた留守。

↓

小出→塩沢：14日間の旅は終わる。



図15 秋山民家内部



図16 秋山の温泉の図

■「秋山」の語源は？

元亨（ごうこう）元（1321）年に市河文書「あけ山」の文字。

譲り状：小赤沢を十郎に与えるほかは、兄弟に分け与えず共同で管理すること。

康永（こうえい）2（1343）年「奥山，秋山にいたるまで」とある。

■和山の「栗地蔵」

上和山寺の大門近くにあった石の地蔵を栗の大木が呑み込み、その大木を片貝の材木商が切り板にした後、眼病にかかり易者から「木の祟り」と云われ、残っていた栗材で地蔵様を彫り（左手に栗を持つ）安置した。

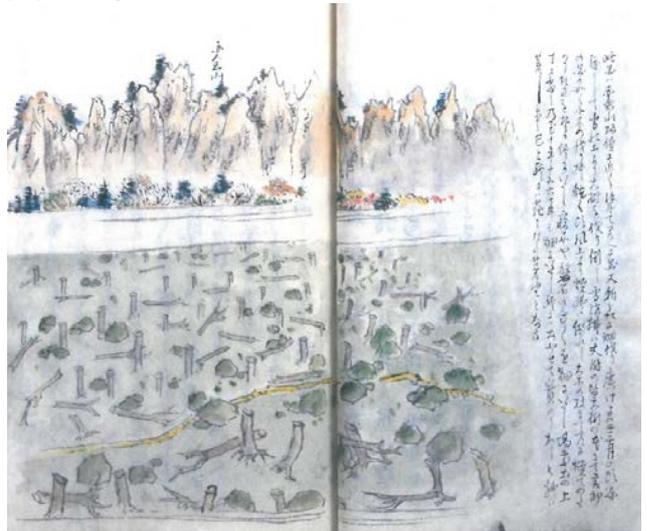


図17 赤倉山路傍近く



図18 栗地蔵

詳細な資料作成とご多忙の中ご案内いただきました「苗場山麓ジオパーク振興協議会」佐藤雅一先生、仲野浩平先生。そして大地の会顧問 渡辺秀男先生、山崎興輔先生に感謝申し上げます。

観察会資料などを大地の会で抜粋・編集・記述

文責は大地の会

「米・水・人」朝日山の酒造り

朝日酒造(株)も地の酒を醸す一蔵元として、地域と共存し、理解を得ながら今日を迎えています。地域に根ざした産業である清酒製造業の根幹です。酒造りの条件である「米・水・人」の3本柱を中心に、安全で安心な製品造りを発展的に捉えた弊社ならではのこだわりについてご紹介します。当日は講演終了後、利き酒も行って頂きたいと考えています。利き酒をご希望の方は、くれぐれも、お車等の運転はご遠慮ください。

一般米



酒造好適米 (酒米)



酒造原料米(一般米と酒造好適米も違い)



酒は良い環境から:丘陵の先端部に位置する朝日酒造



◆講師: 工学博士 **安澤 義彦(あんざわよしひこ)氏**
(朝日酒造株式会社 生産本部製造部 部長)

平成 3 年 3 月東京農業大学農学部農学科卒業。平成 5 年 4 月朝日酒造入社。
平成 25 年 7 月同社, 製造部長
平成 26 年 9 月広島大学より工学博士号授与。専門は醸造(酒造原料米)

主な役職

- 平成 20 年 5 月~新潟産地呼称協会品質審査委員
- 平成 26 年 3 月~新潟県酒造組合技術委員
- 平成 26 年 7 月~新潟清酒教育協会立清酒学校教頭

受賞歴: 文部科学省 科学技術賞(技術部門):平成 20 年 4 月

【と き】平成 27 年 7 月 10 日(金)

総会 午後 7:00~7:30 記念講演会 午後 7:30~9:00

【ところ】越路総合福祉センター3階(右図参照)
長岡市来迎寺3697

【申し込み】Tel・FaxまたはMailでお申し込み下さい

電話: 0258-92-5910(越路支所地域振興課教育支援係)

FAX: 0258-92-3333()

メール: koshiji@daichinokai.sakura.ne.jp(大地の会)

資料準備の都合上, 7月3日(金)までお願いします。



会場案内図

主催: 大地の会・長岡市越路公民館

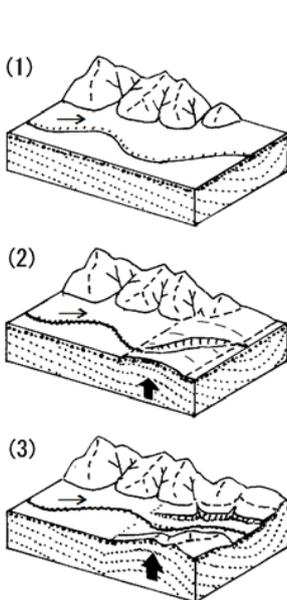
金井さんのボーリング資料から 連載第12回

大地の会顧問 渡辺文雄

(6)塚野山篇 その1

渋海川沿い低地の幅の変化、その地質学的意味

越路地域から小国地域へ404号線を南下してみます(図1)。不動沢付近から次第に山並が迫ってきて渋海川の谷間に入ったと感じ始める間もなく塚山駅の高台を通過して塚野山を抜けるころには再びやや開けた感じになり、鷺之島・原小屋を過ぎれば別世界のような広々とした小国盆地に飛び出します。なぜ不動沢～西谷間(とくに荒瀬付近)で谷幅が狭くなって(山が迫って)いるのでしょうか。



参考図

参考図の左側を上流の小国盆地側、右側を下流の沢下条側と考えてください。(1)は川沿いに平地が広がっている状態です。(2)は地層の褶曲運動に伴って一部だけが隆起を始めた図です。ゆっくりと隆起するときは川の侵食作用がまさって川筋に大きな変更はおきません。(3)はさらに隆起が続いたときの模式図で、(1)で平野だった図の右側が峡谷のように変化しています。

渋海川の不動沢～西谷間で山が迫っているのは、このようなことが起きたからというのがひとつの説

明です。連載第2回(おいたちNo.68号)で確認できたように、西谷付近に川を横切る地層の山なりの褶曲(背斜という)があります。この変形(隆起)は、小栗田原・越路原の変形と同様に、現在も進行中(そして将来も)と多くの研究者が考えています。ただし参考図と違うのは、変形が数十万年以上前からおこなわれているはずなので、参考図(1)の状態はなく、初めから(3)に近い状態で、上流の盆地(沈降部)と下流の狭窄部(隆起部)がセットで誕生したのではないかと想像されます。

低地は段丘と段丘化した谷底平野からなる

さて、404号線を走るときに標高がどう変化するかを図1に示しました。道路はゆるやかに昇降を繰り返しますが、低い部分は渋海川の谷底平野(いわゆる沖積面。ただし段丘化している)を走るもので、高いところは断片化された狭い段丘面を通過するところです。図のA-A'線で示される段丘面トップの高さ(B-B'線からの比高)がよくそろっていること(当たり前のことですが)を図をつくって初めてよく分かりました(注:厳密には道路面と段丘面の各高さは一致していないのですが)。

図1には渋海川のおよその水面位置も入れました。小国盆地では沖積面の比高(水面から)が7~8mはあり、塚野山でも優に5mはあります。年配の方が子供だったころは、渋海川で泳いだり洗濯したりすることは普通の光景だったといえます。当時は簡単に川に降りられたのに、今は断崖になってしまつてとてもじゃない、との話です。50~60年間で2mあるいはそれ以上河床が下がったようです。その多くは瀬替えなどによって急流化し下方侵食が活発になったためと考えられています。

塚野山地域の地形・地質の特徴

塚野山付近の沖積面は、図2(写真)に示すように、I(上位面)とII(下位面)に分けられます。

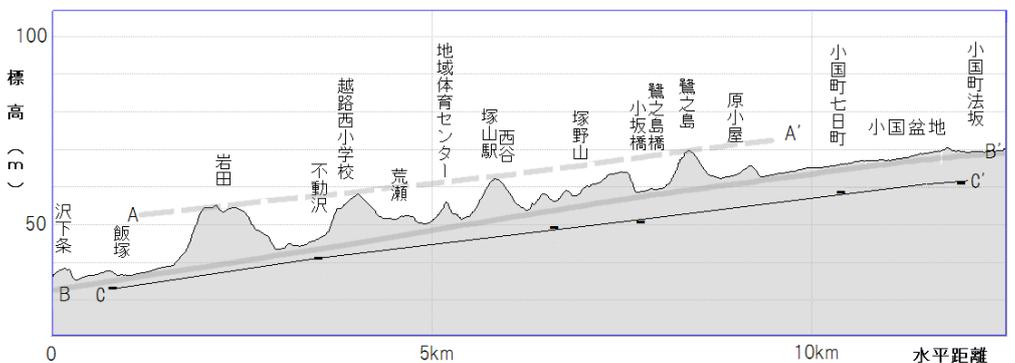


図1 404号線沿いの標高変化 (垂直方向を50倍に誇張してある)

A-A'は高台(段丘面)を結んだ線、B-B'は段丘化した沖積面(低位II面)を結んだ線、C-C'はおよその渋海川の水面高さを示している。左図は地理院地図に加筆、右図は地理院5mメッシュ標高データをもとに作成。

図3左の地図でいうと、塚野山南部で面Ⅰは標高60～66m、面Ⅱは標高55～57mを占めています。集落は面Ⅰに立地し、水田耕作は面Ⅰ・面Ⅱともにおこなわれています。江戸時代の渋海川河床は現在よりも3mほどは高かったので、面Ⅱ（下位面）は洪水の常襲地帯だったと考えられます。

渋海川沿いの崖で、南西へゆるく傾斜した魚沼層がよく観察できます。泥岩層が乾いていても砂岩層が濡れていることが多く、砂岩層が帯水層になっていることが分かります。川沿いで確認する限り、段丘化した沖積面の「河床堆積物」の厚さは、薄いところで1～2m、厚いところで4～5mといったところ

ろです。

金井さんのボーリング柱状図を掲げておきます（図3）。いずれも沖積面Ⅱから穿たれたもので、次号で「河床堆積物」の分布、それ以深の魚沼層の構造、地下水帯水層などについて考察します。



図2 塚野山付近の渋海川と低位段丘面（小坂の北から撮影）

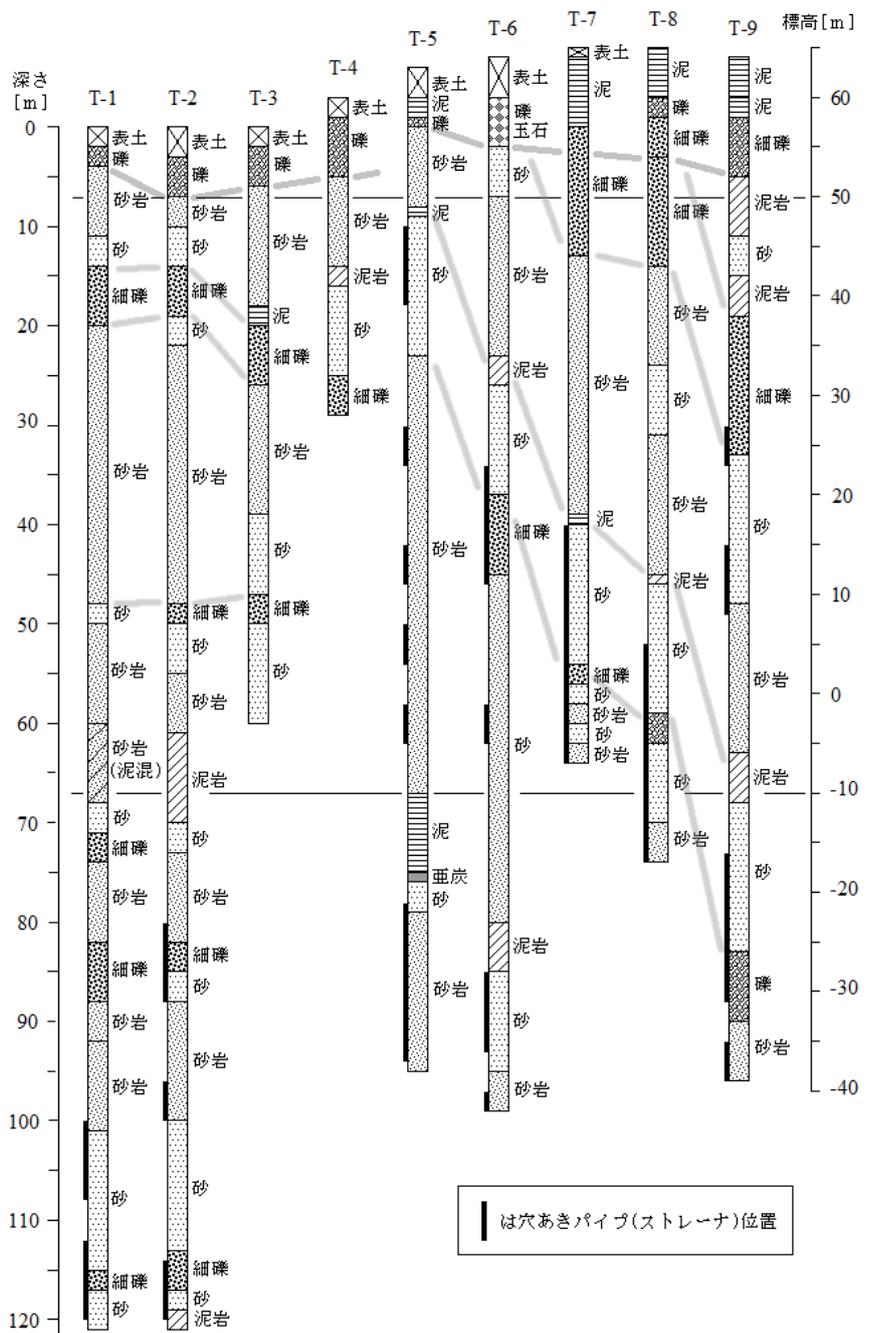
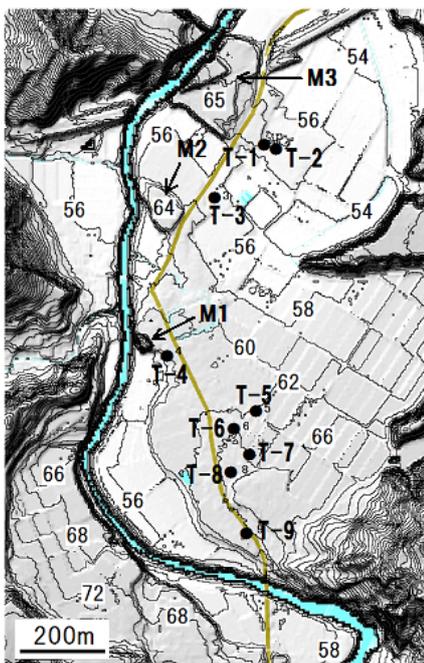
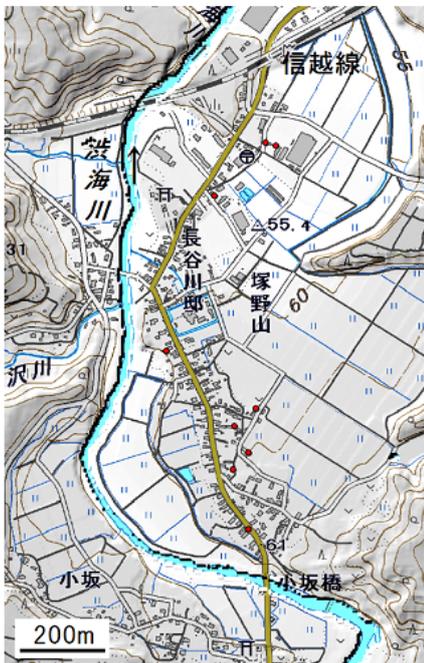


図3 塚野山地区ボーリング位置図・柱状図（左地図は地理院5mメッシュ標高データをもとに作成）

大地の会平成26年度活動報告

1 総会・記念講演会

日時/場所：平成26年6月27日（金）19:00～21:00 越路総合福祉センター

講演：「地域のリスクを共有することで進める住民主体の防災対策」

講師：長岡造形大学建築・環境デザイン科准教授・地域協創センター副センター長 澤田 雅浩 氏

2 会報「おいたち」の発行

77号（6月20日発行） 春の野外観察会報告、総会資料、佐渡一泊地質観察会案内 他

78号（9月20日発行） 総会記念講演会報告、佐渡一泊地質観察会報告、子供向け地学講座案内他

79号（12月20日発行） 地学講座報告、越路小学校校外学習報告 越の里山倶楽部地層観察会報告他

80号（3月20日発行） 地学講座報告、野外観察会案内 他

3 地学講座の開催

統一テーマ 「地図から読みとく大地の成り立ち・歴史・災害」

第1回 平成26年9月26日（金）

講演「東日本大震災現場からの報告」－福島県相馬市への公共施設復旧支援－

講師 長岡市土木部 土木政策調整課 西野靖雄 氏 下水道課 嶋田雅博 氏

第2回 平成26年10月5日（日）

野外観察会「中越地震と水害の現場に学ぶ防災」－小千谷・川口・山古志地域と柿川放水路現場－

講師 大地の会顧問団 長岡地域振興局地域整備部災害復旧課様 施工企業体様

第3回 平成26年10月17日（金）

講演「防災ボランティア活動から見た地域の防災力」

講師 中越防災安全推進機構 地域防災力センター 河内 毅 氏

第4回 平成26年10月24日（金）

講演「新潟をおそった地震災害に学ぶ」－今後の地震防災に向けて－

講師 新潟大学理学部 准教授 久保田喜裕 氏

4 諸活動

○春巡検 平成26年5月18日（日）「弥彦-角田地域の地質と平野の治水」

（弥彦山・間瀬周辺の岩石、先人の水との関わりの施設観察） 参加者 44名

○大地の会「佐渡一泊地質観察会」－佐渡島の成り立ちを各所で観察－

平成26年8月30（土）～31（日）参加者 38人

○新潟県3Dマップ「私たちが暮らす大地の姿」（北陸地域づくり協会発行）に編集協力

○飛び出す地形パネル展

平成26年11月1～3日 「越路文化展」に出展 会場：越路総合福祉センター

○子ども向け岩石加工講座 平成26年8月10日（日）（成出管理棟）小学生12人 保護者11人

○越路小学校校外学習（6年理科）成出の地層観察授業 平成26年11月6日児童90人 引率教師 5人

○成出露頭管理・情報発信（草刈り 6月8日、9月7日）

○越の里山倶楽部研修会 NPO法人 越の里山倶楽部

○幸齢者教室講師派遣（山崎顧問、渡辺（秀）顧問、飯川顧問、渡辺（秀）顧問）

○地域防災力強化支援事業（立体写真図・段彩図作成）

○スノーフェスティバル参加 平成27年2月8日（土）テーマ「羊」

○新年会 平成27年2月7日 「わかば家」

5 役員会等

○定例役員会 毎月1回（第2火曜日）

○私たちが暮らす大地の姿 編集会議

大地の会平成27年度活動計画（案）

1 総会・記念講演会

日時／場所：平成27年7月10日（金）19:00～21:00 越路総合福祉センター

講演：「米・水・人」朝日山の酒造り

講師：朝日酒造株式会社 生産本部 製造部長 工学博士 安澤 義彦氏

2 会報「おいたち」の発行

年4回 発行予定（6月、9月、12月、3月）

3 地学講座の開催

■統一テーマ（仮）「歴史街道物語・国道289号をひらく」

開催予定日

- ・第1回 平成27年9月25日（金）：開講式・講演
- ・第2回 平成27年10月4日（日）：野外観察会
- ・第3回 平成27年10月23日（金）：講演
- ・第4回 平成27年11月6日（金）：講演・閉講式

4 諸活動

○春巡検 平成27年5月31日（日）「秋山郷」苗場山ヅカパーク 実施済み 参加者54人

○立体地図・立体写真「飛び出す地形」パネル展

「飛び出す地形—3Dで読みとくふるさとの大地」

新潟県3Dマップ「私たちが暮らす大地の姿」を活用したパネル展を実施。

越路文化展での開催を予定。新たな立体写真パネルを作成も行う。

○立体写真作成提供（柏崎：鶴川ダム、南魚沼：管内立体写真図 等）

○子ども向け岩石加工講座（成出管理棟）平成27年8月8日（土）を予定。

○成出露頭管理・情報発信（草刈り 春秋2回）

○幸齢者教室講師派遣（6月～11月 4回）

○スノーフェスティバルへの参加

○他団体との交流・参加

糸魚川フォッサマグナミュージアム友の会 東山油田（史跡・産業遺産）保存会

新津石油の世界館友の会 下仁田自然学校 中越防災安全推進機構 信濃川大河津資料館友の会 他

○その他

5 役員会等

○定例役員会 毎月1回（第2火曜日）

役員改選（案）

（名前は順不同）

■顧問 飯川健勝、山崎興輔、渡辺秀男、渡辺文雄、小野塚敏則、上石 勲、吉越正勝、加藤正明

■会長 小川幸雄 ■副会長 大谷晴男、永井千恵子 ■幹事長 中野雅子

■会計 松井直子 ■監事 平澤 聡、内山 隆

■幹事 安藤正芳、石坂圭介、今井俊夫、鷲山 厚、遠藤はつ江、遠藤幹彦、金井幸次、金子秀樹

小林和子、山後栄子、長束敏雄、新田康則、渡辺鉄也、吉田一久、西山 拓、古畑英希、森 章

佐藤 隆、樋口 勲、河内 毅、中野雅嗣、太田道子、山崎麻里子、赤松ゆり子

総会資料

平成26年度 大地の会決算報告

(1) 収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	増減	備考
会費	430,000	412,000	-18,000	個人 82,000円 法人 330,000円
受講費	70,000	56,660	-13,340	春巡検、秋地学講座
受託料	162,000	217,636	55,636	地学講座、成出露頭管理、幸齢者教室、地域防災強化支援事業
助成金	0	0	0	
寄付金	10,000	0	-10,000	
販売収入	5,000	5,200	200	地学関係図書
雑収入	26	39	13	預金利子、佐渡観察会残金
繰越金	153,574	153,574	0	
合計	830,600	845,109	14,509	

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
会議費	70,000	42,589	-27,411	総会、記念講演会、会議会場費
活動費	640,600	624,633	-15,967	春巡検、秋地学講座、佐渡地質観察会、会報、子供地学講座、立体写真展、スノーフェスタ、地域防災力強化支援事業、その他
消耗品費	40,000	14,975	-25,025	封筒、用紙他
通信費	55,000	64,606	9,606	会報・案内等送料
雑費	5,000	0	-5,000	
予備費	20,000	0	-20,000	
合計	830,600	746,803	-83,797	

(収入) 845,109円 - (支出) 746,803円 = (次年度繰越) 98,306円

平成26年度 特別会計決算報告

(1) 収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	増減	備考
マップ・体験集等販売	3,000	0	-3,000	マップ、その他
飛び出す地形販売	50,000	43,525	-6,475	
新潟県3Dマップ委託料	0	983,400	983,400	(社)北陸地域づくり協会
雑収入	71	87	16	預金利子
繰越金	566,529	566,529	0	
合計	619,600	1,593,541	973,941	

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
一般会計繰出金	0	0	0	
新規活動準備金・備品購入費等	609,600	0	-609,600	
新潟県3Dマップ編集・執筆作業	0	863,000	863,000	
通信費	0	19,522	19,522	本送料
消耗品費等	0	34,055	34,055	HDD、赤青メガネ等
雑費	10,000	0	-10,000	
合計	619,600	916,577	296,977	

(収入) 1,593,541円 - (支出) 916,577円 = (次年度繰越) 676,964円

監査報告 平成26年度における収支決算に関する証拠書類と諸帳簿について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。

平成27年 月 日 監事 内山 隆 平澤 聡

総会資料

平成27年度 大地の会予算（案）

（１） 収入の部

（単位：円）

項目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考
会費	430,000	430,000	0	個人 110,000円 法人 320,000円
受講費	60,000	70,000	-10,000	春巡検、秋地学講座
受託料	162,000	162,000	0	地学講座、成出露頭管理、幸齢者教室
繰入金	50,000	0	50,000	特別会計から
寄付金	10,000	10,000	0	
販売収入	5,000	5,000	0	地学関係図書
雑収入	94	26	68	預金利子
繰越金	98,306	153,574	-55,268	
合計	815,400	830,600	-15,200	

（２） 支出の部

項目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考
会議費	70,000	70,000	0	総会、記念講演会、会議会場費
活動費	630,400	640,600	-10,200	春巡検、秋地学講座、会報、子ども地学講座、 立体写真展、スノーフェスタ、その他
消耗品費	25,000	40,000	-15,000	封筒、用紙他
通信費	65,000	55,000	10,000	会報・案内等送料
雑費	5,000	5,000	0	
予備費	20,000	20,000	0	
合計	815,400	830,600	-15,200	

平成27年度 特別会計予算（案）

（１） 収入の部

（単位：円）

項 目	予算額	前年度予 算額	増減	備 考
マップ・体験集等販売	3,000	3,000	0	マップ、その他
飛び出す地形販売	30,000	50,000	-20,000	
雑収入	36	71	-35	預金利子
繰越金	676,964	566,529	110,435	
合計	710,000	619,600	90,400	

（２） 支出の部

項 目	予算額	前年度予 算額	増減	備 考
一般会計繰出金	50,000	0	50,000	
新規活動準備金・備品購入費等	645,000	609,600	35,400	
通信費	5,000	0	5,000	
雑費	10,000	10,000	0	販売経費等
合計	710,000	619,600	90,400	

お知らせ

■糸魚川フォッサマグナミュージアムの入館特典

フォッサマグナミュージアムは平成 27 年 3 月、全面的にリニューアルされました。

常設展示室を 6 つのエリアに分け、糸魚川を代表する美しい鉱物「ヒスイ」や日本列島が誕生した際の大地の裂け目「フォッサマグナ」などをポイントに、地質の時代経過に沿って地球が育んできた自然環境や資源の恵み、また、その一方で人々の暮らしに脅威となる地震や火山、地すべりなどの自然災害について学ぶことのできる内容となっています。(フォッサマグナミュージアム HP より)

大地の会は友の会の賛助会員で特典があります。会員証は永井副会長が保管しています。ご活用下さい。

■ネパール大地震復興支援募金活動

2015 年 4 月 25 日、ネパールの首都カトマンズ北西 77km 付近でマグニチュード 7.8 の大地震が発生、死者 8,500 名を超える大きな被害となりました。「チーム中越」(事務局：(公社)中越防災安全推進機構)では長岡技術科学大学留学生会と学校の再建や生活支援など中長期的な支援のために募金活動を行っています。

大地の会では「チーム中越」からの要請を受けて募金活動を実施しています。募金活動は、①長岡市越路支所に募金箱の設置。②総会等の行事での募金活動の実施です。皆様のご協力をお願いします。



フォッサマグナミュージアム パンフレット



ネパール大地震
復興支援募金へ
ご協力をお願いします。

【長岡技術科学大学留学生会】と【チーム中越】では、ネパール大地震で被害を受けた、学校の再建や子供たちの教育支援・生活再建などの中長期的な支援のために募金活動を行っています。ぜひとも皆様のご協力をお願いします。



「チーム中越」 ネパール大地震支援募金要請

■大地の会作成 3D マップの展示

大地の会での 3D マップの作成は、平成 22 年「3D マップ作成・パネル展」からはじまり、平成 23 年「3D 写真図作成・パネル展」、平成 24 年「飛び出す地形・・・」出版、平成 26 年「私たちが暮らす大地の姿」(北陸地域づくり協会)の編集協力へとつながってきています。

昨年、越路文化展で展示した中越地震災害図の 3D マップが長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」(大手通り)に展示されていますのでご覧頂きますようお願いいたします。

3D マップの作成は長岡市の地域防災力支援強化事業その他、各地区の 3D マップ作成を依頼されるなど広がりを見せています。



賛助会員紹介

- 国際石油開発帝石株式会社
- 朝日酒造株式会社 ■有限会社越路地計
- 株式会社エコロジーサイエンス
- 大原技術株式会社 ■有限会社広川測量社
- 高橋調査設計株式会社
- 株式会社長測 ■オムニ技研株式会社
- エヌシーイー株式会社

順不同

大地の会会報 おいたち 81 号

2015. 6. 20 発行

大地の会事務局

〒949-5411 長岡市来迎寺甲 1381 永井千恵子

e-mail : koshiji@daichinokai.sakura.ne.jp

URL : <http://daichinokai.sakura.ne.jp/>

問合せ先

長岡市越路支所地域振興課教育支援係

担当 赤松ゆり子 TEL 0258(92)5910